

# 11ぴきのねことぶた

原作 / 馬場のぼる (こくま社刊)



脚色・演出 / 東口次登 人形美術 / 永島梨枝子 舞台美術 / 西島加寿子 音楽 / 一瀬季生・茨木新平 照明 / 永山康英 舞台監督 / 奥洞昇  
 舞台監督助手 / 日高拍 音響 / 東口次登 制作 / 松澤美保 歌 / おひさまJrカルテット: 宮本聖・奥洞乃音・隅田透悟・茨木彩音

**あらすじ**

「しょくん、このトラックを われわれ11ぴきのねこのバスにしよう!」  
 「さんせーい!」  
 「しゅっばーつ!」

そのころ・・・

ぶたさんが バイクではしていましたが  
 タイヤがパンクしました。

「まあいいか。なあと きっといい  
 ことがあるさ。おじさんのいえまで  
 のんびりあるいていこう」

ねこたちはだれも住んでいない  
 古い家を見つけおおそうじ。  
 いえのなかはピッカピカ!  
 あさになりました。

「ブーブー、このへんに、ぼくの  
 おじさんのいえがあるんだが、  
 こちらですか?」

「ちがうよ、ここは、11ぴきのねこのいえ」

仕方なくぶたは新しい家をつくりはじめましたが…。



**脚色・演出にあたって 東口次登**

「11  
 ぴき  
 が家  
 をつ  
 くる  
 だ  
 っ  
 て!」

子どものための作品なら、小さな砦を作って  
 遊ぶほうが良いと思うけど、立派な家をつかったり、  
 台風に飛ばされたり、馬場さんの世界は驚きの  
 連続です。スケールが大きくて、11ぴきたちが  
 生き生きと描かれています。やんちゃでわがまま、  
 失敗の連続、でも前を向いて「ニヤゴ、ニヤゴ」  
 みんなで突き進んでいく!何をやっても、すこ  
 楽しそう。そこにはみんなで一緒にやることの  
 大切さが描かれています。

それから何をされてもおこらない、おおらかな  
 ぶたさん。きっと、11ぴきのやることをそれなり  
 に尊重しているのかもしれないね。失敗しても、  
 「まあいいか」と微笑んだり。11ぴきとぶたさん  
 は性格は大違いかもしれないけど、前を向いて  
 楽しんでいるのは一緒なんですね。

一人遊びが増え、失敗をしないさせない世の中  
 にあって、子どもた  
 ちが仲間といっばい  
 出会って遊んで、  
 楽しんでもらえたらと  
 思って人形劇にしま  
 した。

お楽しみください!

